

# 手指衛生におけるICT主催の出前講座の取り組み

後藤 泰代 稲垣 孝行 甚田 由美子

高山赤十字病院 ICT

**抄 録**：平成19年の医療法改正により、従業者に対する院内感染対策のための研修として、「病院等全体に共通する院内感染に関する内容について、年2回程度定期的に開催するほか、必要に応じて開催すること。また、研修の実施内容（開催または受講日時・出席者・研修項目）について記録すること」が義務付けられている<sup>1)</sup>。しかし年2回の開催だけでは、全職員の研修参加は困難である。そこで今回、各部署に院内感染対策チーム（以下、ICT）が出向き研修を行う出前講座に取り組んだことにより、医師・看護師以外のメディカルスタッフの感染管理教育に対するニーズを把握することができた。

**索引用語**：感染管理教育 ICT 出前講座

## I はじめに

当院におけるICT主催の感染管理教育は、これまで医師・看護師を対象とした研修は多かったが、それ以外の職種を対象とした内容が少なかった。また研修日程のほとんどは、勤務時間後を活用し計画しているが、全職員が受講することは不可能であった。

そこで各部署へICTが出向き講義（以下、出前講座）を行う形式により、出前講座前後でどのような変化があるかを調査し、またその取り組みによって感染管理教育に対するニーズを把握し、今後の効果的な研修のあり方について更なる改善ができるのではないかと考えた。今回の出前講座の内容としては、医療関連感染の蔓延を防止する上で医療従事者の誰もが理解していなければならない最も基本である手指衛生に焦点をあて、取り組むこととした。

## II 目的

出前講座を実施し、感染管理教育に対するニーズを把握する。

## III 方法

- 1 実施期間：平成24年9月～平成25年3月
- 2 対象者：栄養課・薬剤部・検査部・リハビリ

テーション課・放射線科・臨床工学課・事務部・介護老人保健施設はなさと職員 合計279名

- 3 研修内容：手指衛生に関する内容で、実技を中心としたシナリオを作成し講義時間を1講義あたり約30分とした。まずWHOが推奨する手指衛生の5つのタイミングの解説を行った。手指衛生教育前に流水による手洗いについて部署の代表者が手技を行い、蛍光剤とブラックライトを使用して洗い残しの部位を確認した。その際には、ICT独自に作成した『石鹸と流水による手洗いチェックリスト（図1）』と『手洗い残し調査表（図2）』を用いて評価した。その後、参加者全員に対し、石鹸と流水による手洗い方法について解説を行った。次に擦式アルコール製剤を用いた手指消毒について、参加者全員で蛍光剤を使用し手技を実践した後ブラックライトを用いて、擦り残し部分を確認した。出前講座終了後に独自に作成したアンケート調査用紙を用い、各部署に依頼した。アンケートは講座終了後の1週間～10日以内に回答を得られた。
- 4 アンケート調査：研修参加理由や、達成度など4項目の設問を各々の職員が自己評価により記入することを求めた。回答方法は主に選択方式を採用した。未回答の項目や公正な評価ができない項目に関しては無効とするものとし、集計から除外した。

平成24年度ICT出前講座	
	職種( ) 氏名( )
石鹸と流水による手洗いチェックリスト (適切に行えれば○、不適切な場合には×を記入する)	
チェックポイント	手洗い教育前の評価
1 腕時計・指輪を外してから洗っているか	
2 手指・手首全体を流水で濡らしているか	
3 石鹸はよく泡立ててから使用しているか	
4 次の部分が洗えているか ①指先・爪の先が洗えているか	
5 ②手のひら	
6 ③手の甲	
7 ④指の間	
8 ⑤手首	
9 ⑥親指	
10 ペーパータオルでよく乾燥させているか	
11 水道活栓は、使用後のペーパータオルを活用し閉めているか	
12 手洗い手技は40～60秒かけて行っているか	
13 爪をかむ癖はないか	
14 髪を触る癖はないか	

図1 石鹸と流水による手洗いチェックリスト

平成24年度ICT	
	職種( ) 氏名( )
<b>手洗い残し調査表(直接観察)</b>	
*ブラックライトで白く光った部分に印をつける *初回と2回目以降が区別できるように色を変える	
手掌側	
手背側	

図2 手洗い残し調査表

#### IV 結果

参加者は193名であった(出席率69.1%)。講座終了後のアンケートは180名から回答を得た。(回答率93%)。手指衛生教育前の石鹸と流水による手洗いチェックでは、手洗いを行う工程をICTが観察したが、手指・手首全体を流水で濡らしていない、手首や母指の洗い方が不十分な人が多

かった。また洗った手指で水道活栓を閉めている参加者が多くみられた。(図3)。その後ブラックライトを使用した直接観察では、手洗い残し調査では、指先・母指・手首に洗い残しが多くみられた(図4)。アンケート結果から参加理由で最も多かったのは「職場で役立てそうだから」であった(図5)。内容に対しては、「職場で役立つ」が最も多く、「知識が深まった」「テーマに沿っていた」と続いた。その一方で「難しかった」との回答もあった。(図6)研修の進め方については「良かった」と答えた人が最も多かった。(図7)研修参加目的の達成度は「達成できた」参加者が多かった。(図8)「あまりできなかった」と回答した例は、具体的にはもう少し時間があると良かったとの意見に一致していた。また受講後の具体的な感想・意見が得られた。(表1)

#### V 考察

平成22年度までは、看護師に対しては赤十字キャリア開発ラダーにおいて、ラダーⅠ～Ⅲに応じた感染管理教育が計画され、ICTメンバーの看護師が講師となり関わってきた。そのため看護師においては、他の職種と比較しても感染管理教育を受講する機会は多くあったといえる。またこれまでのICT主催の感染管理教育の内容を振り返ってみると、広報の時点で対象を医師・看護師と限定していたことがあった。そのため他のメディカルスタッフが「自分達には関係のないこと」として関心を集めにくく、参加しにくい要因になっていたのではないかと考える。また全職員を一度に収容できる会場はなく、勤務者等を考慮しても同じ内容で何度か繰り返し開催することが必要になる。しかし担当する講師の負担や他の研修が重なりやすく会場が確保しにくい状況であったことも一因であったと考える。そのため今回の出前講座は、開催時間を事前に部署の責任者と調整を行い、カンファレンスの時間や休憩時間を活用したことで参加しやすかったため、多くの職員が参加することができたと考えられる。

WHOが推奨する手指衛生の5つのタイミングの解説では、これまでの全職員対象の講義におい

平成24年度ICT出前講座		職種	氏名
石鹸と流水による手洗いチェックリスト (適切に行えていれば○、不適切な場合には×を記入する)			
チェックポイント	手洗い教育前の評価		
1 腕時計・指輪を外してから洗っているか			
2 手指・手首全体を流水で濡らしているか			
3 石鹸はよく泡立ててから使用しているか			7/16名中
4 次の部分が洗えているか	①指先・爪の先が洗えているか		
5	②手のひら		
6	③手の甲		
7	④指の間		
8	⑤手首		
9	⑥親指		7/16名中
10 ペーパータオルでよく乾燥させているか			
11 水道活栓は、使用後のペーパータオルを活用し閉めているか			10/16名中
12 手洗い手技は40～60秒かけて行っているか			
13 爪をかむ癖はないか			
14 髪を触る癖はないか			

図3 石鹸と流水による手洗いチェックリスト

平成24年度ICT		職種	氏名
手洗い残し調査表(直接観察) * プラックライトで白く光った部分に印をつける * 初回と2回目以降が区別できるように色を変える			
手掌側			9/16名中
			9/16名中
手背側			10/16名中

図4 手洗い残し調査表

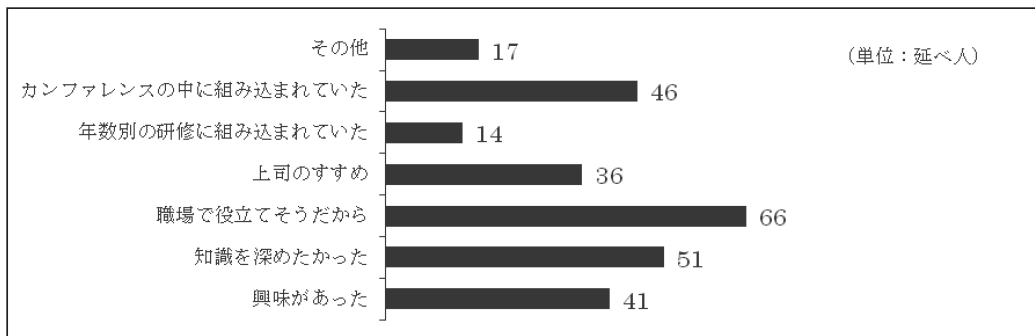


図5 研修参加理由《複数回答可》

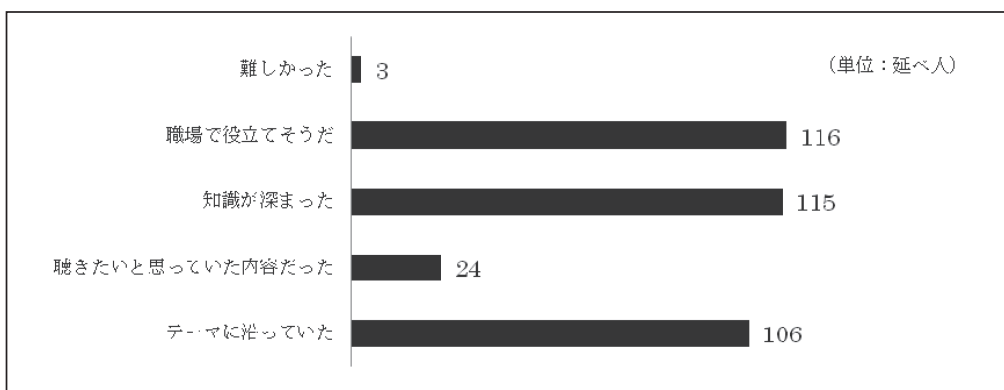


図6 内容について《複数回答可》

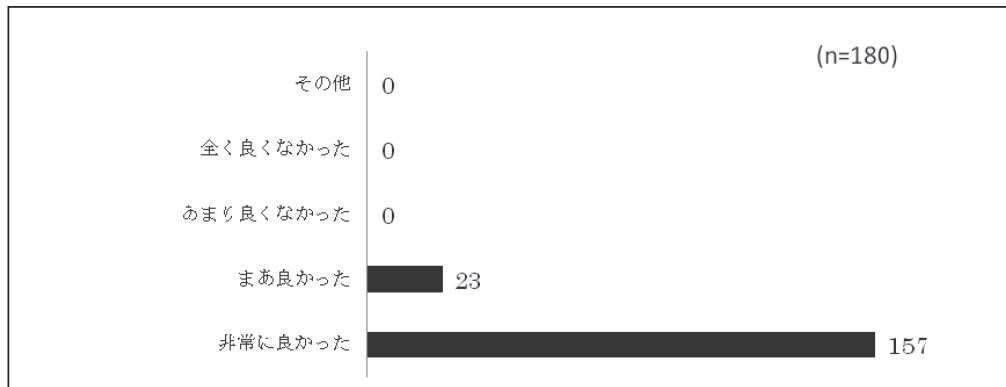


図7 研修の進め方(時間配分)

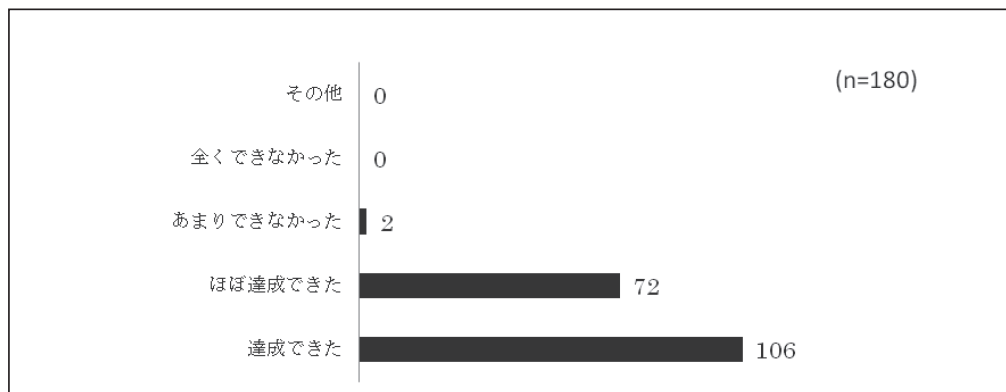


図8 研修参加目的の達成度

表1 受講後の具体的な感想・意見

手指衛生に関すること	企画に関すること
手洗い方法を再認識できた	楽しかった
普段洗っていないことに初めて気づいた	短時間に大切なポイントを絞ってあり良かった
アルコールの量・拭き方が足りないことが分かった	少人数・部署別だと質問しやすい
病院で勤務しているうえでは大切なことと再認識できた	またこのような機会をお願いしたい
実際はまんべんなくできていないということがわかった	出前講座のため、参加しやすかった
たかが手を洗うだけであってもこれからもちゃんとやらねば。	複数のテーマから選んだものを講義してもらいたい
自分の意識が薄かったことに気付いた	実践的で良い講座であった
日頃やっているつもりだったが、しっかりできていないと感じた	わかりやすい説明で良かった
自分の癖がわかった	気をつけようという意識が高まり、良いことだ
目で見て納得できた	今後もこのような研修があると良い
集団指導の際に役立つ。患者さんにも広げていきたい	同じことの繰り返しも必要なので継続してほしい
アルコールが擦り込みできていないところが理解できた	今後もこのような講座ならば参加したい
手洗いの方法・ポスター等水道の近くにあればよいと思う	部署からの希望の内容でも行ってほしい
汚れの残りやすい部分に気をつけて今後行っていきたい	マスク・咳エチケットなど、他の内容でもお願いしたい
きれいに洗っているつもりだったと実感した	新しい珍しい企画で新鮮だった
石鹸・アルコールともに意識して使用するようになった	もう少し長い時間でもよかったかも(30分以上1時間以内)
患者さんへの配慮も必要(なぜ必要か等)	
院内トイレの石鹸液が薄いので改善してほしい	
手洗い方法のポスターが無い場所もあるので追加してほしい	

て実現できなかった各職種別の具体的な患者との接触場面を想定し解説を行った。その結果、自分たちの立場でどのような状況が想定できるか、注意すべきことをそれぞれが考える機会になったため、出前講座の参加理由や内容に関するアンケート調査の結果「職場で役立てそうだ」という意見が最も多かったことにつながったと考えられる。

また、統一したチェックリスト・シナリオを作成することにより、確実に伝えたいテーマを絞り、講義時間が30分という限られた時間の中で、内容に一貫性をもって伝えることができた。そのため、出前講座の研修の進め方に対するアンケート結果も「非常に良かった」という意見が最も多かったと考えられる。

出前講座を実施するメリットとして、各部署単位での講義となるため、時間経過とともにお互いに話し合いながら実技を行うことができたこと、1回の最少人数は11名、最大人数は31名の参加であり、参加者の様子も間近に把握することができ、質問や確認がしやすかったことが挙げられる。

これまでの全職員対象の講義は、60分の座学であり、講師側からの一方的な講義で終わっていることがほとんどであった。学習効果のピラミッドでは、異なる学習方法による学習定着率・忘れにくさに違いがあることを表している。その学習方法別の定着率の中でも講義を聞く5%に比べて、体験することは75%の定着率があるとされている。記憶はその事柄に関係する他の情報と関連づけて覚えると残りやすいといわれており、単に型どおりに解説しただけでは印象に残りにくくなると報告されている。意味のある内容のほうが記憶に残りやすく、自己に関連した情報処理を行なうと記憶に残りやすいといわれ、一回だけ覚えるよりも、繰り返して覚えようとするほうが記憶に残りやすい。そのため、出前講座の内容構成は、実技の内容を中心としたシナリオ構成とした。その結果、手指衛生に関するアンケートにて「自分の癖がわかった」や「汚れが残りやすい部分がわかった」などの具体的な意見や、企画に関するアンケートにて「楽しかった」や「参加しやすかった」など具体的な意見が得られ、出前講座の研修参加目的の達成度に関するアンケート結果でほとんどの参加者において「達成できた」もしくは「ほぼ達成

できた」につながったのではないかと考えられる。しかし、今回の取り組みは、時間配分の関係上、参加者全員が手洗い手技を経験しておらず、また全職員を対象とした手指衛生の強化月間などのキャンペーン等実施した上での出前講座ではなかったため、すべての職員が医療従事者としての基本的な手指衛生が実践できるようになったわけでない。

洗い残しの多くみられた部分や、手洗いの工程の中で不十分であった部分については、個人の癖や利き手などにも影響すると考えられるが、一般的に洗い残しをしやすい部位と言われている部分に合致していた。そのため、今後は受講後の具体的な意見でも得られたように、一度開催したから終了してしまうのではなく、今後継続した取り組みを行うことにより、医療現場に働く者の使命として手指衛生などの感染対策が意識付けられていく必要があるのではないかと考えられる。

今回の出前講座の実施後には部署で定期的に指導してほしいとの要望など、ICTメンバーに様々な意見が寄せられるようになった。この取り組みは、ICTとは何者なのかを認識してもらえる機会ともなったと考えられる。

## VI おわりに

今後は、アンケート調査により得られた意見を活かし、より楽しく学べ、身につけられるようなテーマの選定や少人数制の研修会について積極的に企画し、継続して感染管理教育に取り組んでいきたい。

## 参考文献

- 1) 厚生労働省医政局長通知  
<http://www.mhlw.go.jp/topics/bukyoku/isei/i-anzen/hourei/dl/070330-1.pdf>、  
[accessed 2013年4月1日]
- 2) 満田年宏編：結果が出せる感染対策 いちから始める実践プログラム、インフェクションコントロール2013年春季増刊、メディカ出版、2013
- 3) 白石麻子、山内勇人他：日本環境感染学会教

- 育ツールを活用した職員教育、日本環境感染学会誌、23 (5) 371-374、2008
- 4) 高田加壽代、小林誠他：病院全職員を対象とした簡易スタンプテストによる手指衛生教育の取り組み、日本環境感染学会誌、23 (1) 48-51、2008
- 5) 田口洋子、木村紫他：当院におけるコ・メディカルスタッフに対する院内感染予防に関するアンケート調査について、日本環境感染学会誌、23 (2) 151-154、2008